



ショートコメント

★★★★★

Data

2024-85

愛と死をみつめて

1964 年／日本映画

配給：日活／117 分

2024（令和 6）年 12 月 17 日鑑賞

シネ・ヌーヴォ

監督：斎藤武市

原作：大島みち子、河野実

出演：浜田光夫／吉永小百合

／笠智衆／原恵子／

内藤武敏／滝沢修／

北林谷栄／ミヤコ蝶々

／笠木シヅ子／宇野

重吉

👁️👁️ みどころ

小説の発表が 1963 年、映画の公開が 1964 年だから、1949 年生まれの私は最も多感な中高生時代に、ミコとマコの長距離恋愛に遭遇したことになる。今でこそガンは早期発見、早期摘出手術をすれば怖い病気でなくなったが、1964 年当時の軟骨肉腫とは？その治療法は？手術後の生存率は？

時に吉永小百合は 19 歳。最も華やかな美しい年代に、顔の左半分をガーゼで覆い、自ら「お化け！」と形容するセリフは辛いはずだが、その熱演は？

1964 年の阪神タイガースセリーグ制覇は、中学 3 年生の私もトランジスタラジオを聞きながら祝ったもの。2024 年の岡田タイガースは 2 連覇を逸したが、2025 年は藤川球児率いる新生タイガースのセリーグ優勝を、亡きミコとともに期待しよう。

◆「昭和は遠くなりにつれ」を実感する令和 6 年の今、マコ（河野実）とミコ（大島みち子）の純愛物語が 1963 年に大ベストセラーとなり、東京オリンピックが開催された 1964 年に吉永小百合（小島道子役）×浜田光夫（高野誠役）のゴールデンコンビで映画化されたことを知っているのは、今や、じいさんばあさんになってしまった団塊世代だけだ。

1964 年といえば、私はまだ中学 3 年生。一人で 3 本立て 55 円の映画館に通い始めた多感な時期だが、「封切館」への入場は経済的に到底無理。したがって、私は本作を映画館の大スクリーンでは観ておらず、ずっと後の TV 放映された時にみただけだ。また、DVD できちんと見て評論を書いたのは、2008 年 10 月 12 日だ（『シネマ 21』86 頁）（別添資料として添付しておく）。

◆そこでは、小説と歌と映画で『セカチュー』（04 年）をはるかに凌駕する社会現象を生んだミコとマコのラブストーリーの評論を

①1964 年の社会現象を今あらためて

②遠距離恋愛では、手紙が命

③2 人のベテラン、笠智衆と宇野重吉に注目！

④タイガース優勝 vs タイガース散る

⑤今昔の感を新たにすることがもう 1 つ

の小見出しで書いた『シネマ 21』86 頁) が、16 年後の今、それを読み返してみても、あの時の感動と流した涙をハッキリと思い出すことができる。

◆しかし、2008 年当時の、還暦を過ぎたばかりの私は病氣らしい病氣をしたことがなく、いたって健康だった。したがって、本業の弁護士業務では大勢のスタッフを率いて先頭に立って日夜奮闘していた。その結果、『シネマ 21』の表紙写真は、事務員一同からプレゼントされた還暦記念の赤いチョッキと赤い帽子を身に纏った姿で登場していた。

しかし、はじめて劇場のスクリーンで本作を鑑賞した今は、①2015 年 11 月の大腸がん②2016 年 9 月の胃がん③つい直近の 2024 年 10 月の肺がん、という 3 度の手術を乗り越えた中で、75 歳という年齢を迎えている。したがって、10 年前には全くわからなかった病人の苦しみ、入院の苦しみ、死への恐怖等が今は少しはわかるようになっていく。「銀幕デビュー65 周年記念 吉永小百合映画祭」という企画にもかかわらず、本日の観客は十数名だけ、そのすべてが私と同年代もしくはそれ以上のお年寄りばかりだ。そんな状況下での 14 年ぶりの本作の鑑賞だが、さてその感想は？

◆2024 年の今、本作の公開は 60 年前だから、時代状況が全く異なっているのは当然だ。しかして、本作を鑑賞してあらためて思ったその変化は、文通と長距離電話の姿だ。令和 6 年＝2024 年の今、ラブレターという言葉は既に死語になっているし、年賀状廃止の動きも顕著。また、ケータイ電話とスマホの登場以降、固定電話も公衆電話も消滅しかかっているし、「長距離電話は料金が高いから手短かに」などと話しても、何のことかさっぱりわからないはずだ。

しかし、たまたま大阪大学付属病院に入院していた小島道子（ミコ）と知り合った高野誠（マコ）は東京の予備校の学生だったから、そこから始まった遠距離恋愛におけるコミュニケーション手段はもっぱら文通と長距離電話になった。SNS 時代の今、そんな姿はまさに今昔の感があり、「昭和は遠くなりにけり」の典型だが、それはそれでいいものだ。ミコとマコの遠距離恋愛から数年後の、私自身の恋物語の展開においても、手紙と電話がいかなる役割を果たしたかを思い出しながらじっくりと楽しむことができた。

◆本作は、斎藤武市監督の演出によるものだが、原作が 2 人の文通を核としたラブストーリーだっただけに、それを尊重して随所に手紙の朗読シーンを登場させている。私はさだまさしが作詞・作曲し、山口百恵が歌った名曲『秋桜（コスモス）』の「此頃涙もろくなっ

た母が「庭先でひとつ咳をする」の歌詞が大好きだったが、75歳ともなると、涙もろくなっていることを自覚せざるを得ない。

そのため、本作鑑賞時も、嘘の嫌いなマコがミコに対して直球を投げつけてくるのに対して、ミコが「あなたに教えてあげたい、人は時には悲しい嘘をつかねばならないことを。」と返した手紙を読むシーンでは、どっと涙が……。さらに「私に健康な日を3日だけ下さい。」と書いた手紙を読み上げるクライマックス(?)の場面では、たちまち顔がくしゃくしゃに……。

◆本作を鑑賞した2024年のプロ野球では、2年目の岡田阪神は出だしのふらつきにもかかわらず、後半は優勝争いに絡んできたが、結局最後は巨人に敗れてセリーグ優勝ができず、クライマックスシリーズでも横浜ベイスターズの下剋上に屈した。奇しくもそれは、本作をDVD鑑賞した2008年と酷似している。それに対して、マコが阪神タイガースのファンだったということは本作でも描かれているが、1964年の阪神タイガースのセリーグ優勝は、私も中学3年生の時に愛媛県松山市の自宅でマコと同じようにトランジスタラジオで聞いていたから同じ体験をしている。

このように本作については、1964年、2008年、そして2024年と3度も阪神タイガースが絡んでいるので、そんな縁を感じながら、来年2025年のシーズンでの阪神タイガースのセリーグ優勝を、亡き大島みち子さん(ミコ)と共に祈りたい。

◆人間の寿命は人間の力ではどうしようもないもの。もしシーザーがBC44年に暗殺されず、あと10年くらい生きていたら？もし織田信長が1582年に明智光秀の謀反に遭わず、あと10年くらい生きていたら？もし坂本龍馬と中岡慎太郎が1867年に暗殺されず、あと10年ぐらゐ生きていたら？私はよくそんな想像をし、自分勝手な“歴史上のif”を想像している。しかし、本作中盤には名優・宇野重吉が車椅子に乗った老人・中山役に登場し、自分の洗濯物の世話をしてくれるミコに対して感謝するシークエンスが登場していた。これはミコの入院生活における一つのエピソードに過ぎないが、そこに宇野重吉というベテラン俳優を配したのが斎藤武市監督の素晴らしい計算だった。それは、ミコの父親役に名優・笠智衆を配したことにも表れている。

本作を鑑賞する中で何度も涙を流すのは当然だが、本作の最後は遂に息絶えたミコを両親や医師、看護師が見守る中、突然ドアを叩き、車椅子に乗った中山が入ってくるのでそれに注目！こんな場入院仲間に過ぎない中山が飛び込んでくるのは本来“場違い”だが、そこで彼が叫ぶ、「わしが代わりに死にたかった！」のセリフを聞くと、そこでどっと涙が。なるほど名優・宇野重吉にこのセリフを叫ばせるため(だけ)に、斎藤監督は中山役に宇野重吉を配置したわけだ。そんな演出に感心しつつ、涙に濡れた顔をしっかりと拭いて退場することに。

2024(令和6)年12月23日記

愛と死をみつめて

2008(平成20)年10月12日発売(CDVD 両面)

★★★★★



監督＝斎藤寅次郎／原作＝大島みち子、河野実『愛と死をみつめて』（大和書房刊）／出演＝
浜田光夫・吉永小百合／笠智衆／原恵子／内藤武敏／宇野重吉（日活配給／1964年日本映画
／117分）

……小説と歌と映画で、『セカチュー』（04年）をはるかに凌駕する社会現象を生んだのが、ミコとマコのラブストーリー。それは多くの日本人を、東京オリンピックの感動とは異なる涙、涙また涙の世界へ。吉永小百合19歳。そんな一番綺麗な時期に、顔の左半分をガーゼで覆った静かな熱演に注目！
連距離恋愛に不可欠な、ケータイメールではない手紙の威力について再認識したいものだ。

1964年の社会現象を今あらためて

「マコ……甘えてばかりでごめんね ミコはとっても幸せなの」。こんな歌詞で始まる歌をあなたは知ってる？ これは青山和子が歌い、1964年の日本レコード大賞を受賞した『愛と死をみつめて』。軟骨肉腫という難病に冒された小島道子（ミコ）と、彼女を愛し3年間も支え続けた恋人高野誠（マコ）との間で交わされた文通書簡をまとめた『愛と死をみつめて』は1963年に出版され、160万部を売り上げる大ヒットとなった。そんなミコとマコのラブストーリーと悲しい結末を映画化した、吉永小百合・浜田光夫の純愛コンビの代表作がこれ。いわば『難病モノ』の走りだが、2006年に草薙剛、広末涼子主演でテレビドラマとして放送されたから、若い人たちも知ってるのでは？ また、2004年には難病モノの傑作セカチューこと『世界の中心で、愛をさけぶ』が社会現象になったが、1964年の本作はそれ以上の社会現象。

1964年といえば東京オリンピックの年。日本人は一方で女子バレー、体操、レスリングを中心とする五輪での日本人選手の活躍に喜び、他方で『愛と死をみつめて』の悲しい結末に涙したわけだ。吉永小百合が『愛と死をみつめて』に出演したのは19

■タイガース優勝 vs. タイガース散る

阪大病院に入院しているミコは大阪タイガースファン。したがって、ラジオで野球の実況中継がある時は、ラジオが必需品。しかし、「愛と死をみつめて」が公開された1964年、阪神タイガースは？

当時の阪神タイガースは藤本定義監督。1962年に小山正明、村山実則エースと、遊撃手吉田義男、三塁手三宅秀史、二塁手鎌田実ら鉄壁の内野陣で見事リーグ優勝を果たした阪神タイガースは、1964年にはエース小山と大毎オリオンズの4番打者山内一弘とのトレードを成立させたうえ、パッキーが小山の穴を埋める大活躍。その結果、大洋ホエールズとのギリギリの闘いの中、最後の9連勝によって見事逆転優勝。映画の中でミコが必死にラジオに聴き入っているシーンが見られるが、それはこんな劇的な試合を阪神タイガースが闘っていたためだ。しかるに、2008年の今年は？ 私がこの評論の完成をギリギリまで延ばしていたのは、CS（クライマックスシリーズ）における阪神タイガースの行方を見守っていたため。最大13ゲームもあった大差をひっくり返されての巨人による大逆転劇に続いて、今年の岡田タイガースは勝率5割そこそこで何とか3位に残った落合中日とのCS第1ステージで敗退することに。

46年前の名作『愛と死をみつめて』をあらためてビデオ鑑賞して何度も涙を流したが、阪神タイガースの今昔についても、こんな思いを新たに……。

■今昔の感を新たにすることがもう1つ

私は「タバコ1000円法案」の1日も早い成立を願っているが、アメリカ発の世界金融危機が広がる中、「金融安定化法案」などの法案成立が優先され、「タバコ1000円法案」は目下カヤの外……。そんなことを考えながらこの映画を観ていると、タバコに関して今昔の感がふつふつと……。今では飛行機や新幹線の中では禁煙が当然だし、病院内でも禁煙は常識。しかし、46年前の阪大病院では……？

第1に驚いたのは、マコが東京からミコの病室にお見舞いに来た時、「まずは一服」とタバコを吸い始めたこと。第2にそれ以上に驚いたのは、病状の説明をするために主治医（内藤武敏）がミコの病室に入って来た時、何と主治医もタバコに火をつけたこと。今では到底考えられない風景だが、46年前はこれが普通だったのだ。そう考えると、タバコについての今昔の感を新たに……。 2008（平成20）年10月22日記

歳の時で、多分一番綺麗な時。そんな1964年の社会現象となった『愛と死をみつめて』における吉永小百合の、顔の左半分をガーゼで覆った静かな熱演に注目！

■ 遠距離恋愛では、手紙が命

ミコが入院していたのは阪大病院。他方、信州出身のマコが通うのは東京の某大学。したがって、あるきっかけで知り合い交際を始めた2人は、いわば遠距離恋愛の走り。しかし、バイトで稼いだお金だけでは東京～大阪間を再三往復することはできないから、2人の交際は文通を中心としたものに。今は何でもケータイメールだが、1964年当時の遠距離恋愛は手紙が命。書籍がベストセラーとなったのは、切々と綴られた2人の気持の純粋さに心打たれたため。そんな文通集を映画化したのだから、そこには心に残るエピソードや名言がいっぱい。その例を3つだけ挙げておこう。その1は、あなたに病院の外で健康な日が3日あれば何をする？ ミコは、1日目は故郷へ飛んで帰る、2日目はあなたのところへ飛んでいく、そして3日目は1人で思い出と遊ぶと書いたが、さて……？ その2は、マコは直球型の人間でウソが大嫌い。ある日病状を心配するマコに対して、ミコが「大丈夫」と言ったことがその後ウソだとわかったから大変。マコは「なぜ、僕にウソをつくんだ！」と怒り出すことに。そんなマコに対するミコの手紙は、「貴方に教えてあげたい。人は時には悲しい嘘をつかねばならないことを」。さて、このセリフをどう理解？ その3は、病状が絶望的な状況に坐っていることを知ったミコは何とかそれに耐えたものの、そこで書き残した手紙は「私が今一番ほしいもの、それは密室。その中で声の続く限り泣いてみたい」というもの。こりゃ、涙なしで読めないのでは？

■ 2人のベテラン、笠智衆と宇野重吉に注目！

笠智衆は小津安二郎作品に欠かすことのできない名優だが、その笠智衆がミコの父親正次役として存在感を見せているから注目！ もう1つ注目すべきは、出番は少ないものの感動的なシーンが強く印象に残る、ベテラン俳優宇野重吉が演ずる入院患者で車イスに乗っている中山仙十郎。

難病と闘いながら毎日を懸命に生き、中山の洗濯物の世話までするミコの心の美しさに感動している中山が、ミコの病室に入り、「道子はん！ わしが代わりに死にたかった！」と叫ぶラストシーンでは、思わずどっと涙が溢れ出ることに。

愛と死をみつめて 87